



中野さんの作品の一例。店内には個性的な作品が溢れる。



季節によって内容が異なるランチとお菓子。ご予約の際に確認を。

ンで指導してくださいと伺い、そのおちからにあやか事にしたのだ。体験の様子はイラストレポートにまとめてあるので、そちらを参照していただきたい。

ランチは季節の地場野菜が中心の、ヘルシーな和食の構成となっている。もちろん器はすべて春日野焼だ。この日は高野豆腐の天ぷらが絶品であったが、内容は日替わりのため、何度も訪れて色々な味を楽しみたいものだ。

また奈良と言えばいまや「氷の聖地」とされるほど、かき氷が有名である。筆者は甘すぎるものは苦手なのだ

が、こちらのかき氷はさっぱりとして上品な舌触りで、ペロりとたいらげました。口福口福。

ランチや陶芸体験は、ぜひ予約のうえ訪問を。またかき氷は夏季のみ提供なのでご注意ください。

作品販売やカフェは、営業時間内であればいつでも楽しめる。特にカフェは、日によって焼き菓子などがあるかないか? 何とも予想外の出会いが期待できそうなお店だ。



古民家を改装した素朴な店構え。お手洗いにある焼物の洗面台も必見。

【春日野窯】
〒630-1821
奈良市春日野町158-19
電話 0742-12313557
<http://haruhinogama.web.fc2.com/>

【ひろの・りお】兵庫県三田市在住のイラストレーター。一次・二次産業を題材にしたイラストを得意とし、教科書や行政・自治体を中心に挿絵を提供している。フットワークを活かした取材とレポートイラストに定評あり。
<https://hironorio.work/>



陶芸とお食事で奈良時間を楽しむ 春日野窯(奈良市春日野町)

文・イラスト: 広野 りお (日本旅のペンクラブ会員)

春日(ハルヒ)は元々は地名である「かすが」の枕詞とされ、この地を歌に詠む際には「春日(ハルヒ)のかすが」といった風に使われた。これがのちに「春日」を「かすが」と読む所以だと言う。

春の日(春分の日)には、春日山と若草山の山頂から太陽が顔を出し、平城の地を照らし出す。そんな霊験あらたかなこの春日の地に構えている陶芸工房が、今回訪れた「春日野窯(ハルヒノガマ)」である。店主であり陶芸家である中野則子さんの、個性的だがどこか懐かしく親しみが持てる陶芸作品を見学・購入したり、陶芸作品作りを体験できる。また併設のカフェでは、陶芸作品を見学しつつランチやお茶を楽しむ。今回は、筆者の陶芸体験レポートや、美味しいランチやかき氷をイラストを交えてご紹介したい。

早朝には店の前を、若草山を根城にする鹿たちが列を成して奈良公園の中心部へ「通勤」する光景が見られるという。そんな若草山の麓にあった古民家が、現在は陶芸工房とカフェとして生まれ変わり、多くの方に親しまれている。

店に入るとまず迎えてくれるのが、牧歌的でどこか懐かしさを感じる装飾と、中野さんの手から生み出された数々の陶芸作品たちだ。筆者は決して陶芸に明るいわけではないが、とは言え丹波立杭焼の御膝元で長く暮らしている。多少は知っているつもりでいたが、むむっ、使い勝手が良さそうなものだけでなく、何やら個性的なものも並んでいるゾ? それもそのはず、ここにある作品はすべて中野さんのオリジナル、その名も「春日野焼(ハルヒノヤキ)」なのだ。鹿や奈良晒を使った文様など、奈良を題材にした作品が多く、訪れる者の期待を裏切らない。

今回は店主の作品を楽しむのも然ることながら、初めて陶芸品作りを体験させていただいた。メニューは絵付け、手びねり、ろくろがあり、それぞれにオプションを付ける事もできる。陶芸体験とランチがセットになったコースが人気とか。なるほど、芸術的探求心と食欲を一度に満たすことができるわけだ。

陶芸初心者の筆者は、だがしかし、メニューの中で最も難しいとされるろくろを選んだ。中野さんがマンツーマ